

看護師の死後の処置に対する意識と死生観との関連

key word 死後の処置 死生観 看護師の意識
12階西 ○植野太郎 立町佳奈 高橋梨絵

はじめに

死後の処置は、死の転帰をとった患者に行う看護師の最後の看護行為であり、家族に対しての遺族ケアの始まりともされている。しかし、実際の業務の中でなかなか死後の処置に時間をかけられていないのが現状である。また、病院で死を迎える人が大多数となっている現在、私達看護師が死を看取る機会が増え続けている¹⁾。かつては家族によって看取られていた死が、見知らぬ人(看護師)によって看取られ、私達看護師も身内でない人の死を看取っている現状がある。それに伴い、看護師は死後の処置を看護師の仕事として当然のこのように引き受けているのではないだろうか。先行研究²⁾により多くの看護師は死者に対しては敬虔な気持ちを抱くが、死後の処置に対する満足感を感じている看護師は少ないということがわかった。また、死後の処置をするにあたり、看護師の死生観が根底に深く関連すると私達は考えた。そのため死後の処置の現状を知り、看護師の死後の処置に対する意識と看護師の死生観について、またその関連について検討しその人らしさを大切にしたいよりよい死後の処置につなげられるように臨床の場を変えていきたいと考えた。そこで本研究を行う意義があると考えた。

I 研究目的

1. 死後の処置の現状とその状況に携わる看護師の意識と死生観を明らかにする。
2. 死後の処置に対する意識と死生観との関連を明らかにする。
3. 臨床経験年数による死後の処置の意識と死生観の違いを明らかにする。
4. 死後の処置にかかる時間の満足の有無における死後の処置および死生観の違いを明らかにする。

II 研究方法

1. 対象
 - 1) 死後の処置に携わる私立大学病院病棟看護師(手術室、看護師長は除く) 721名
 - 2) 調査期間
平成19年10月9日～10月17日
 - 3) 質問紙の作成
死生観に関する質問用紙は平井敬ら³⁾の死生観尺度を使用した。死後の処置についての看護師の意識については死後の処置を行う際に

配慮する点と関わる時の気持ち、死後の処置の捉え方、この3件から引用参考文献を参考にし、26項目を自作で作成した。死生観に関するもの、死後の処置についての看護師の意識に関するもの、双方とも全く思わないからとてもそう思う、の5件法とした。

4) 配布と回収方法

各部署の管理者に配布し回収した(留め置き法)

5) 分析方法

spss ver.10を使用して、基礎統計量、t検定、因子分析、相関係数などを算出していく。

III 倫理的配慮

アンケートは、研究の主旨に同意を得られた方のみの自由返答とし、無記名で回収させてもらうようにした。得られた情報は今回の研究のみで使用し、その他の目的での使用は一切行わない。

IV 結果

1. 背景

質問用紙回収：521名(回収率72.2%)

所属病棟：内科系病棟151名(29.0%)

外科系病棟222名(42.6%) その他146名(28.0%) 無記入2名(0.4%)

年齢構成：

20～29歳で375名(72%)と大多数を占め、30歳以上は132名(25.3%)、無記入は14名(2.7%)であった。

臨床経験年数：(図1参照)

1～3年、4～7年が各40%前後であった。

2. 実態

1) 死後の処置の知識

「知っている」という回答が519名(99.6%)、「知らない」という回答が2名(0.4%)だった。

2) 死後の処置にかかる時間

30～44分が304名(58.3%)と最も多く、30分以内は98名(18.8%)であった。45分以上は76名(14.6%)であった。

3) 死後の処置にかかることのできる時間の満足度(図2参照)

「満足している」と「満足していない」は半数に満たなかった。

4) 死後の処置について学ぶ機会があれば参加

したいか。

「はい」と答えた人は約78%であった。

- 5) 病院で亡くなった患者の死後の処置は誰が行うのがのぞましいか。

「看護師のみ」が62名(12%)、「看護師と家族」が254名(48.8%)、「看護師と家族と医師」が197名(37.8%)、「家族のみ」が8名(1.5%)、「業者」が11名(2.1%)、「その他」が14名(2.7%)

3. 死後の処置に携わる看護師の意識

26項目5件法の評定結果について、「とてもそう思う」が高得点になるように1～5点を配し得点を算出した。次に、項目ごとに得点分布の偏りの無いことを確認し、26項目を分析対象にした。因子分析は因子数を4～3まで変化させて探索的に主因子法、バリマックス回転による因子分析(表1)を行い、固有値1以上の3因子を抽出した。そして第1因子を「遺体への畏敬の念」、第2因子を「自分の死への連想」、第3因子を「儀礼的行為」と命名した。尺度得点の平均をだして全体の意識を示し、その結果、全体的に遺体への畏敬の念の得点が高いことが明らかになった(図3参照)。

4. 死生観

死生観尺度は5件法の評定結果について「とてもそう思う」が高得点になるように1～5点を配し得点を算出し、因子分析を行った。その結果、平井ら³⁾と同じ構造が確認されたので平井らの下位尺度に従って尺度得点を出し全体の死生観を図4に示した。その結果全尺度のうち「死からの回避」が低い得点を示した。

5. 死後の処置に対する意識と死生観の関連

相関係数を用いて意識に関する3因子と死生観に関する7因子をかけ合わせた結果、表2のような結果となった。死後の処置に対する意識と死生観とは高い相関関係にあることが示された。

6. 臨床経験年数による死後の処置に対する意識の違い

臨床経験年数を1～3年を低群、4～7年を中群、8年以上を高群の3つに分け分散分析によって3群の違いを求めた。その結果表3に示すように全ての下位尺度において1%の有意水準で有意差を認めた。そのためLSD法による多重比較を行った。その結果、経験年数が多いほど遺体への畏敬の念が高く、儀礼的意識が低い。また経験年数が少ないほど死後の処置から自分の死を連想することが分かった。

7. 死後の処置にかかる時間の満足の有無における死後の処置に対する意識の違い

処置にかかることのできる時間に満足している群としていない群の2群に分類した。分けた2

群をt検定にかけ差を検討した。その結果、表4に示すように「遺体への畏敬の念」で1%の有意水準で有意差を認めた。満足していない群の方がより「遺体への畏敬の念」が高かった。

V 考察

今回の研究の結果、死後の処置にかかる時間は30～44分が最も多く、60%近くを占めており、平均時間は30.95分であった。死後の処置にかかる時間への満足度は43%に満たないことが明らかになった。

死後の処置に対する看護師の意識のアンケート結果では、「死後の処置を行う際、その人らしさをだせるよう心がけることが大切である」、「死後の処置は工夫や修正を行い個性性を追求すべきである」などの死後の処置に対する遺体への畏敬の念を持っている人が多かった。死生観については、「私は死について考えることを避けている」といった死からの回避の意識が低く、死について考える機会が多いことが分かった。藤腹²⁾によると、「死生観が死後の処置という行為に何らかの影響を、しかも、より好ましい影響を与えているのではないかと考えられる」とあるように、やはり死生観が、死後の処置を実施するにあたり、看護師に大きな心理的影響を与えていると考えられる。

死後の処置に対する意識と死生観との関連については、死後の処置に対して遺体への畏敬の念をもっている人ほど、「死後の世界はあると思う」といった死後の世界観や「人生にはっきりとした使命と目的を見出している」といった人生における目的意識、また死への関心が高いことが分かった。このことから死への関心が高い人ほど、死後の処置にかかる思いが強いと考えられる。

臨床経験年数と死後の処置に対する意識の関係は、経験年数が高いほうが遺体への畏敬の念が高く、経験年数が低いほど儀礼的行為が高い。また自分の死への連想についても高かった。これは年数を重ねるごとに、ただ死後の処置を実施するだけでなく、その人にあったよりよい死後の処置を行おうとする意識が生まれるからだと言える。経験年数が低いほど死への連想が高いのは、まだ死に直面する機会が少ないため、自分の死と結び付けて考えてしまうためだと考えられる。

死後の処置にかかる時間に対する満足の有無と死後の処置に対する意識の違いの関係については、遺体への畏敬の念が高い人ほど現在死後の処置にかけている時間に満足できていないという現状があることが分かった。これは遺体への畏敬の念が高い人ほど、より時間をかけてその人らしい死後の処置を行いたいと思っているためと考えられる。

VI 結論

全体的に看護師の死後の処置に対する肯定的意識は高く、同時に、死に関心を持っている看護師ほど現状に満足することなくよりよい死後の処置を望んでいることが分かった。このことから、日常から死をタブー視することなく、死への関心を向け、自らの死生観を振り返り養うことが、その人らしい死後の処置につながると考える。

引用文献

- 1) 森宮圭. 看護婦は、なぜ「死後の処置」を当然のように受け止めているのか. エキスパートナース. 11 (9), 1995.
- 2) 藤腹明子. 死後の処置に関するナースの意識の移り変わり. エキスパートナース. 11(9), 30 - 33, 1995.
- 3) 平井啓, 坂口幸弘, 安部幸志他. 死生観に関する研究. 死の臨床. 23(1),71 - 76,2000.

参考文献

- 1) 藪内圭子, 久松亨子, 早野香緒里他. 死後の処置に関する現状及び看護師の意識調査. 日本看護学会論文集 (看護総合). 37, 295 - 297, 2006.
- 2) 磯亀裕子. 死後の処置におけるその人らしさを大切にされた看護. 日本看護学会論文集 (成人看護Ⅱ). 33, 45 - 47, 2002.
- 3) 谷美行. エンゼルケアへの家族参加に関する看護師の意識調査. 日本看護学会論文集 (看護総合). 37, 289 - 291, 2006.
- 4) 片野裕美. 「死後の処置」はどう行なわれているか、そして看護婦は何をすべきか. エキスパートナース. 11(9),26 - 29,1995.

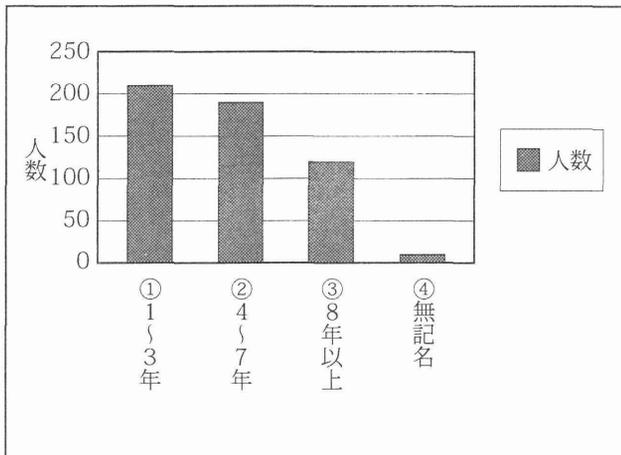


図1 臨床経験年数

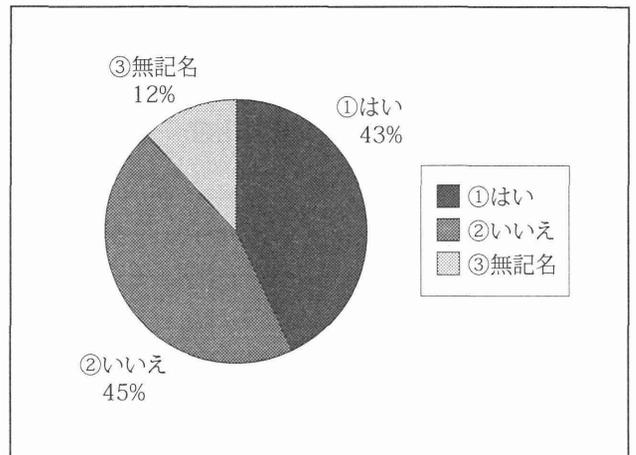


図2 現在の死後の処置にかかることの時間に満足しているか

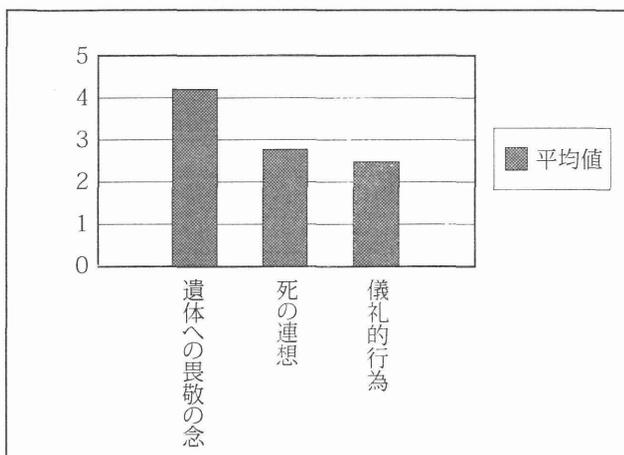


図3 死後の処置に対する全体の意識

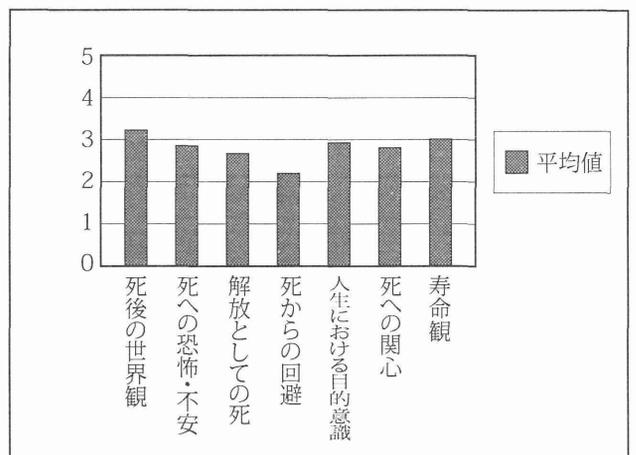


図4 死生観

表1 看護師の死後の処置に対する意識についての因子分析結果

項 目	因子1	因子2	因子3
＜遺体への畏敬の念 $\alpha=0.817$ >			
エンゼルメイクはその人らしさをだすために必要だと思う	.787	.060	-.117
死後の処置を行う際、その人らしさをだせるよう心がけることが大切である	.763	-.002	-.163
エンゼルメイクは生前の患者の表情に近づくように工夫すべきである	.651	.036	-.045
死後の処置を行う際に家族に要望を聞くことは大切である	.548	-.011	-.159
死後の顔をエンゼルメイクで整えることは看護である	.540	.077	-.179
死後の処置は工夫や修正を行い個別性を追及すべきである	.538	.063	-.127
死後の処置を行う際に患者の宗教的背景を尊重することは必要なことだ	.487	.060	-.181
家族が死後の処置に参加することは意味のあることだと思う	.401	.047	-.133
＜死への連想 $\alpha=0.873$ >			
死後の処置を行うと自分が死んだ後のことを意識してしまう	.002	.884	.092
死後の処置を行うと自分がどういふ死をむかえるのか意識する	.094	.856	.001
死後の処置を行うと自分もいつかこのように死を迎える日がくるのだと意識してしまう	.126	.763	.082
＜儀礼的行為 $\alpha=0.629$ >			
死後の処置は仕事だから仕方が無い	-.093	.031	.667
死後の処置は儀礼的行為にすぎない	-.262	.136	.540
死後の処置にまつわる慣習には関心が無い	-.311	-.081	.481
死後の処置はできれば避けたいと思う	-.095	.062	.432
因子負荷量の二乗和	3.618	2.178	0.798
因子の寄与率(%)	24.123	14.517	5.323
累積寄与率(%)	24.123	38.640	43.963

表2 看護師の死後の処置に対する意識と死生観の相関係数

尺 度	死後の世界観	死への恐怖・不安	解放としての死	死からの回避	人生における目的意識	死への関心	寿命観
遺体への畏敬の念	0.152**	0.016	0.033	-0.166**	0.234**	0.184**	0.083
死への連想	0.100*	0.306**	0.180**	0.129**	0.048	0.358**	0.166**
儀礼的行為	-0.049	0.140**	0.068	0.230**	-0.106	-0.099*	0.040

* $p<.05$ ** $p<.01$

表3 死後の処置の下位尺度の群別の平均と分散分析結果

尺 度	低群 n = 205 M(S D)	中群 n = 189 M(S D)	高群 n = 111 M(S D)	F 値 (2.507)	多重比較
遺体への畏敬の念	4.12(0.49)	4.13(0.515)	4.33(0.47)	7.288**	①, ②<③
死への連想	2.87(1.02)	2.61(0.94)	2.62(1.09)	4.018**	①>②, ③
儀礼的行為	2.59(0.57)	2.55(0.69)	2.34(0.75)	5.468**	①, ②>③

** $p<.01$

表4 看護師の死後の処置にかけられる時間に対する満足感の有無の t 検定結果

尺 度	満足有群 M(S D)	満足無群 M(S D)	t 値
遺体への畏敬の念	4.11 (0.50)	4.24(0.51)	-2.610**
死への連想	2.64(1.051)	2.78(1.02)	-1.545.n.s
儀礼的行為	2.52(0.643)	2.47(0.69)	0.759.n.s

** $p<.01$